



平成30年度学校評価アンケートの結果報告につて

日頃は、本校の教育にご理解ご支援をいただき、ありがとうございます。

さて、2学期末にご協力いただきました「学校評価アンケート」及び「児童アンケート」、「教職員アンケート」の集約結果を「平成30年度学校評価・学校自己評価一覧表」【別紙】として取りまとめましたので、ご報告申し上げます。

また、集約結果を受けての考察、及び今後の取り組みの改善方法など以下のとおりまとめましたのでご覧ください。

①学習ルールの系統化 【児童：94.5%・教職員：100%】

昨年度から、学校として大切にしてきた取り組みの1つです。教職員が「学習のルールの定着」を意識し、授業時間ごとに子ども達と努力してきたことが結果に繋がろうとしています。確かな学力を獲得するためにも、落ち着いた環境の中で学習することはとても重要です。今後も学び合いを基にした問題解決的な学習を充実させるために、ホワイトボードの活用など授業を工夫したり、チーム・ティーチング指導や少人数指導を充実させたりして、継続して取り組みを進めていきたいと考えます。



②家庭学習の充実 【児童：90.4%・保護者：89.5%・教職員：96.6%】



ほとんどの子ども達が毎日忘れずに家庭学習をしています。気になるポイントとしては個人差(できていない子どもが固定化しつつある)が出てきたことです。学校では、授業以外の「朝の学習」「自主学習」「家庭学習(宿題)」を3本の柱として、主体的な学習態度の育成に取り組んでいますが、伸び悩んでいる現状があります。家庭学習については、保護者の方のご協力も欠かせません。学習のてびきなどで子ども達にも丁寧な指導を継続していきたいと思いますので、ご家庭での温かい見守りをよろしくお願いします。

③いじめを生まない学級づくり 【児童：96.7%・保護者：99.0%・教職員：100%】

いじめを生まない集団づくりは、教職員が学校生活の中で常に意識している大切なポイントです。28年度までの様子を見ると気になる結果が出ていただけに昨年度から特に重要な指導として取り組んできました。いじめ調査や教育相談を学期に1回は必ず行い、子ども達の実態把握をしたり、主体的に子ども達が活動できる心豊かな学年・学級集団づくりを進めたりしてきた結果、全体としてはいい方向に向かいつつあります。今後も、子ども達を「ほめる」「励ます」「認める」などの肯定的な評価をして、自己有用感を高められるよう取り組みを継続していきます。



④規範意識の向上 【児童：93.8%・保護者：99.8%・教職員：93.1%】

学校では、「はづきたのやくそく」や「けやきっ子十か条」を基に指導をしてきました。学習のルールも大切ですが、日々の生活の中でお互いが気持ちよく生活できる環境をつくるためにも生活のルールを意識することは欠かせません。今年度は、児童会の「月別生活目標」と「けやきっ子十か条」を連携して取り組んだことが落ち着いた学校を維持できている要因の一つであると思います。また、毎年6年生で行っている全国学力学習状況調査でも学力と規範意識との相関関係が証明されています。これからも、落ち着いた環境を維持できるよう、早めの指導、温度差のない指導を継続していきたいと思います。



⑤基礎体力・運動能力の向上 好き【児童：88.5%・保護者：85.7%・教職員：96.6%】

頑張る【児童：90.0%・保護者：85.7%・教職員：75.9%】

基礎体力や運動能力は健やかな成長をするためにも大切な「力」の一つです。学校では体育の時間を中心に体を動かすことの楽しさや喜びを味わわせるとともに、学級遊び、業間マラソン、縄跳びなどの取り組みも進めてきました。昨年度は体育の授業以外にはほとんど自分から体を動かそうとしない子どもが気になりましたが、授業を中心に「運動の習慣化」を重点的な取り組みとして進めていった結果、運動を頑張っている児童が増えています。今後も体力向上委員会の取り組みなどを充実させ、更に体力づくりを推進していきたいと思ひます。



⑥会議業務の改善と効率化・働き方の改革 効率化【教職員：96.6%】働き方【教職員：82.8%】

子ども達が楽しく生活できる学校を目指し、子ども達に対して効果的な教育活動ができるよう本校職員は真面目に取り組みを進めてきています。まだまだ不十分な部分もありますが、学校評価を見ても一定の成果が出せていると考えます。近年、社会的な問題になっている教職員の長時間労働についても、会議・業務の改善と効率化や働き方の改革に取り組み始めているところです。より良い教育を実践するために、教職員も心身ともに健康でその専門性を十分発揮してより質の高い教育の実現に向けて更に努力していきますので、ご理解ご協力よろしくお願いします。



最後に、中央教育審議会として保護者・PTA や地域の方々をお願いをしたい。子供の数が減少する中、一人一人の子供たちが保護者の宝であると同時に我が国のかけがえのない宝であると感じる時代はない。この一人一人の子供たち全てが、未来を生き抜く必要な力を身に付け、その将来に大きく羽ばたくことができるよう、教育の役割は一層重要となっている。その教育の最前線で、日々子供たちと接しながら、子供たちの成長に関わることができる喜びが大きいとはいえ、つらいことがあっても、自らの時間や家族との時間を犠牲にしても、目の前の子供たちの成長を願いながら教壇に立っている現在の教師たち。これまで我々の社会はこの教師たちの熱意に頼りすぎてきたのではないだろうか。所定の勤務時間のはるか前に登校する子供のために、自分はさらに早朝に出勤する教師。平日はもちろん一般の社会人が休んでいる休日まで子供たちの心身の成長を願い部活動に従事する教師。子供の様子を一刻も早く共有するため、仕事をしている保護者の帰宅を待ってから面談をする教師。こうした中で、教師たちは長時間勤務を強いられており、そして疲弊している。

今回の学校における働き方改革は、我々の社会が、子供たちを最前線で支える教師たちがこれからも自らの時間を犠牲にして長時間勤務を続けていくことを望むのか、心身ともに健康にその専門性を十二分に発揮して質の高い授業や教育活動を担っていくことを望むのか、その選択が問われているのである。子供たちの未来のため質の高い教育を実現するには、保護者・PTA や地域の協力が欠かせない。この答申の最後に、学校における働き方改革についての保護者・PTA や地域をはじめとする社会全体の御理解と、今後の推進のための御協力を心からお願いすることとしたい。

2019年1月25日 中央教育審議会「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）」より

《アンケートの集約を終えて》

貴重なご意見ありがとうございました。集約をする中で、新たに見えてきたことやいくつかの取り組みの方向性が正しかったことを確認することができました。今回、確認できたことを来年度の学校づくりビジョンの中にもきちんと位置づけ、取り組みを進めていきたいと思ひます。特に「新たに見えてきたこと」や「取り組みの方向性」を修正する必要があるものについては、学校づくり協力者会議の方による「学校関係者評価」ともすり合わせながら、本校教職員全員で検討し、平成31年度がスムーズにスタートできるよう準備していきたいと考えています。

また、ご回答が必要なものにつきましては、学校だより等でその都度発信させていただきたいと思ひますし、本校の教育活動をより良いものにするためにも、直接お問い合わせいただきますようお願いします。

